

項目	最低基準 ゼロエネルギー達成に向けて 最低限確保すべき基準	推奨基準 環境負荷の低減と快適性を 高次元で達成する基準	先導基準 環境負荷を極限まで抑える チャレンジ基準
■ゼロエネルギー化の取組 (エネルギーを大切に使う)			黄色い着色項目は県補助制度の 想定要件項目 (基本・加算)
□ 省エネルギー (少ないエネルギーで快適な住まい)			
外皮性能基準	0.4~0.5 (ZEHレベル)	0.3~0.4 (ZEH+レベル)	0.2~0.23 (G3レベル)
暖房負荷 (kwh/m <sup>2</sup> ) (参考指標)	省エネ性能の新たな指標として併せて検討が望ましい 県基準制定予定 (4年度以降)		
再生エネを除いた一次エネ削減目	20%以上	25%以上	30%以上
気密性能基準	1.0以下		
給湯設備の高効率化	潜熱回収型機器の設置		
換気	適切な換気計画、全熱交換器の設置 クールチューブによる地熱利用		
節水	節水水栓、節水水栓、雨水利用		
照明	原則LED		
昼光利用	適切な開口部による昼光利用 (単純開口部20%以上)		
HEMSの導入	新築時導入		
□ 再生可能エネルギーの利用 (積極的な創エネルギー)			
太陽光発電、木質 <sup>a</sup> 付マ活用	3kw相当以上搭載	ゼロエネ達成量の搭載	ゼロエネ達成量の搭載 (家電製品を考慮)
地域特性や近隣条件を検証し将来計画も含め原則として設置			
【バイオマス燃料を主要な暖房熱源とする場合における、太陽光搭載発電容量の算定に当たっての取扱い】	① 一次エネ削減目標 (-20%~) 達成 (エアコン選択) ② 全館を1とした空調管理が可能な間取り (吹抜等) ③ ①②を満たした上で、必要発電量の算出に当たっては、 暖房一次エネに0.3を乗じるものとする		
太陽熱利用	太陽熱温水器 (熱利用を積極的に検討)		
			暖房利用
■ゼロカーボン化の取組 (ライフサイクルにおけるCO <sub>2</sub> の排出抑制)			
□ 建設時等に出来るだけCO <sub>2</sub> を排出しない			
県産材の利用	県産材3m <sup>3</sup> 又は仕上材30m <sup>3</sup> 以上	県産材6割以上	県産材8割以上
建材(断熱材等)のCO <sub>2</sub> 削減の取組	特に負荷の高い建材の使用は控える		
木質 <sup>a</sup> 付マの活用 (再掲)	ペレット・薪ストーブ		
□ 出来るだけ長く使い続ける住まいづくり・災害への備え			
長寿命化 耐久性	主要構造部の耐久性		
〃 平面計画	世帯構成の変化に対応可能な間取の可変性		
〃 維持管理	設備・配管の管理・更新の容易性、 住まい手への対応 (維持管理履歴等)		
〃 高齢社会への対応	バリアフリー基準に適合 (車椅子で生活可能なこと)		
耐震性能の基準(在来軸組木造)	壁量1.25倍 (耐震等級2レベル)	壁量1.5倍 (耐震等級3レベル)	
レジリエンス性の確保	災害危険区域等の回避	災害危険区域等の回避 蓄電池の設置	
■建築計画に関する取組 (自立循環型住宅設計の取入れ等)			
配置計画	方位 (日射取得)、卓越風の把握		
日射取得 (冬)	南側に大きな開口部+日射取得型サッシ、 蓄熱の工夫		
日射遮蔽 (夏)	南側に長い庇又はベランダ、 夏場のよしず等設置 (住まい方)		
通風確保	主要な居室に2方向の開口部、通風経路の確保、 吹抜、引き戸、高窓、卓越風利用		
快適な空調設備	全館を1とした空調管理 (吹抜、ヒートショック防止)		
気候変動への対応 (酷暑)	躯体からの排熱の工夫、外付けブラインド		
景観・周辺環境への配慮	見かけ上の最高軒高7m以下 (豪雪地帯の落雪屋根等を除く。)		
外構・植栽計画	南側落葉中高木植栽、生態系への配慮		
伝統技能の活用 (左官壁、建具、畳、瓦)	積極的に取入れ		
多世帯同居	3世代同居対応、間取の可変性		
住まい方等	新たな働き方などへの対応、周囲とのコミュニケーション の工夫 (土間、オープンガーデン等)、DXへの対応		
その他	モニタリング等への「協力」		